

令和2年度 第3回十和田市外部評価委員会(記録簿)

日 時: 令和2年9月 25 日(金)10:00~11:00

場 所: 十和田市役所 本館3階 庁議室

出席者: 十和田市外部評価委員会委員 10 名

(高井委員長、升澤委員、佐々木令子委員、櫻田委員、佐々木千佳子委員
大宮委員、木村委員、丸山委員、原委員、高木委員)

事務局: 漆館企画財政部長、小川課長、前田課長補佐、坂本係長、柏崎主事、馬場主事

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 案件 外部評価対象事業の最終評価

全8事業について事務局から概要説明後、委員による意見交換

【①妊娠期からの切れ目のない子育て支援】健康増進課

委員

・男性女性関わらず、働くことを通じて地域社会を盛り上げていくことは、人口減少が進んでいく中で本当に重要である。
・実際に推進していくことは難しいが、意識的に進めなくてはいけない。
・さらに重点化を図って、強く意識して事業を推進していただきたい。

委員長

・その他の提言の中で、子育ての先も見据えた、二十歳までのロードマップを作る。などのリクエストがあるが、それぞれ検討していただきたい。

担当課

・対応可能なものについては検討する。

★最終評価

「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了

【②介護保険の安定運営】高齢介護課

担当課

【当日資料について補足説明】

・2040年では2030年より65歳以上の人口は減少しているが、要介護認定者数が増えていき、介護給付費は増加していくという予測となった。
・原因としては、2040年は85歳以上の人口が増加すると予測されるため、要介護認定者数も増え、介護給付費も増えると想定される。

委員長

・2050年には65歳以上が人口の50%程度になるという予測だが、東京など若年層の人口が多い場所を除いて、青森県や全国も同様の傾向か。

担当課

・地域でタイミングは異なるが、基本的には同様の傾向になると思われる。

★最終評価

「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了

【③焼山地区活性化】商工観光課

委員長

・新型コロナの影響で海外観光客も、国内観光客も共に少ないとは思いますが、紅葉シーズンで回復することを期待する。

	・事業内容への意見は、同様の考えが多く、各委員の意見の通りだと思われるので、担当課で参考にさせていただきたい。
★最終評価	「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了
【④冬期観光の充実・強化】商工観光課	
委員長	・共通する意見として、交通手段がウィークポイントであるため、交通手段を事業者などと連携して確保すべきとあるため、検討していただきたい。
★最終評価	「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了
【⑤移住・交流への支援体制の強化】政策財政課	
委員	・全体の人口は減っていくと予測される中で、人口増を目標とするのではなく、地域の生産性を上げていくことの方が重要なのではないかと考える。
委員長	・Uターンで進学や就職を機に外へ出た人が、どこかのタイミングで戻ってきてくれれば良いが、それも難しいのが現状と思われる。
委員	・移住に対する補助について、近隣の他市町村との違いはどうなっているか。
担当課	・新築住宅取得の補助については、当市では定住自立圏外からの転入という居住地要件を定めているが、同様の要件を定めていない自治体もある。
★最終評価	「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了
【⑥市営住宅の整備】都市整備建築課	
委員長	・PFI については事業発注や契約がスリム化されることで、受託事業者と意志の疎通がとりやすいといったところがメリットであるという印象である。
担当課	【提言の「現団地の土地売却の確実性に不安がある」について】 ・現団地の土地は学校やスーパーに近いため利便性が高いと考えている。 ・土地としての魅力は高く、即売とは言い切れないが早い段階で売却されると考えている。
委員	・市では他の事業でも同様に PFI で事業を行うことを考えているか。
担当課	・今後の事業を PFI で行うかは効果を検討しながら決めることになるが、現状は市営住宅の整備と下水道の浄化槽整備の2事業を PFI で行っている。
★最終評価	「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了
【⑦資源再生利用の推進】まちづくり支援課	
委員	・提言にも出ているが、個人の意識が重要な事業であるため、意識の啓蒙に力を入れて頑張っていたいただきたい。
★最終評価	「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了
【⑧元気な十和田市づくり市民活動支援】まちづくり支援課	
委員	・開始から 10 年ほど経過している事業だが、これまで助成を受けている団体の成果や継続性が見られないと事業の意義が問われる。 ・申請時の目的をクリアできていない事業もあるため、事業選定の方法にも疑義がある。どうやって選考されているのか説明していただきたい。
担当課	・平成 23 年度の事業開始から 107 団体が事業を利用して、事業利用後も 84 団体が継続して活動していることから、事業としては各団体の活性化に一役を買うことができていると考えている。 ・審査については、選定委員会などで各団体からプレゼンテーションをしていただき、各事業を公益性・必要性・将来性・創意工夫性・協調性の5項目の基

	準によって審査をしている。その検討委員会での意見を踏まえて、市が決定するというプロセスで実施している。
委員長	・補助を受けている団体の公表などはしているか。
担当課	・市ホームページで公表している。
委員長	・過去の補助を受けている団体を全て見る事ができるか。
担当課	・過去の年度は見る事ができない。その年度の団体だけを公表している。
委員長	・継続性が大切なのであれば、単年度分のみを掲載するのではなく市民活動のバナーなどを立てて、過去の事業や団体などを見られるようにして、ページから各団体や活動につながる仕組みを検討していただきたい。
担当課	・一応この事業の成果とは異なるが、市民活動団体自体を検索できるページはある。団体に活動内容などを記入してもらった様式を掲載している。
委員長	・それらのページはわかりやすい場所に掲載されているか。
担当課	・すぐにわかる場所ではないと思われる。
委員長	・すぐにわかる場所に掲載されることで、各団体の活動が伝わりやすくなると思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・84 団体が継続しているということは素晴らしいことである。 ・ただ、若い人たちが市民活動などに手上げしていることが少ないように感じている。 ・若い人たちにもこういう活動をしているということを周知しながら、社会貢献の活動が広がっていくようにしていただきたい。
★最終評価	「事業評価集計表」の内容を委員会の評価結果として、本事業の評価を終了
【各委員からの外部評価全体総括・行政への意見等】	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、これまで作成した様々な市の計画を修正しなければならないのではと懸念している。 ・今回の評価に関してはコロナの影響を加味せず評価させていただいたが、今後の事業実施にあたっては柔軟に取り組んでいただきたい。 ・外部評価委員会では多くの事業の中から8事業を評価しているが、法律に基づきながら、市民の声を聴きながら、現実的な制度設計をしていくというのは職員の皆さんがプロフェッショナルなのだと思う。 ・その行政組織の中で、自由闊達な議論が出来るということも、より良い制度設計に影響すると思われる。 ・現状そういった状況ではないというわけではないが、そういった風土づくりにも努めて頂きたい。 ・介護給付費の推計を見ていて、高齢化率が2050年には50%になるという予想に驚いた。 ・人口がある程度いても年齢構成によって地域の運営が厳しくなってくる、これが小さな村ではなく市でもこういった状況にあるということで認識を改めた。 ・高齢者の方々から、元気であるためには「きょういく・きょうよう」が必要だと言われ、詳しく聞くと「今日行くところがある・今日用事がある」ということで、定年を迎えて社会とのつながりを失ってしまっただけで老け込んでしまわないための考え方を教えてもらったことを思い出した。

- ・行政主体の事業をさらに民間の事業者でやることができればと感じた。そのためには民間が行っている良い取組・事業に対しては支援していただきたい。
- ・例えば、先日報道されていた県南清掃さんがバイオガスで発電を行う事業は良い取組だと思った。そういった取組を支援していただきたい。
- ・十和田市には多様な観光資源があるが、県内の方でも来たことがないという方が多くいるように感じているので、どんどんアピールしていただきたい。
- ・観光事業者もコロナで疲弊していると思われるので、ぜひ観光資源を有効活用できるように積極的に支援していただきたい。
- ・観光事業者はコロナの影響を受け、現在は助成金などで成り立っている。
- ・来年度にこの助成金などがなくなると、どのくらい事業者がなくなるかという心配をしている。それを防ぐためにもDMOと市との連携を密にしていきたい。
- ・今年はコロナで様々なイベントが中止・延期となっているが、先日、市・DMO・商工会議所の3者が協力し、「まるっとフェス」を開催することができた。関係者が力を合わせて開催できたことは、十和田市の底力なのかなと思っている。
- ・しかし、佐々木委員もおっしゃっていたが、コロナで大変な中で来年・再来年がどうなるのかが気になる。おそらく来年もまだイベントの開催が難しく、中小企業の倒産も出てくるかもしれないと予想している。
- ・その中でも、商工会議所の会員は現在増えている。これを継続できるように我々も頑張るが、行政にも頑張っていたきたい。
- ・高齢であっても自立して生活していくためには健康でなければならないということをそれぞれ考えていくことと、若い人たちがまずこの十和田市で仕事ができるという環境を整えていただきたい。そうすることで、いくらかでも就職率や人口増加につながると思う。住み易い十和田を作っていたきたい。
- ・外部評価については、色々な団体の人が集まって検証することは良いことだなと感じている。
- ・私が所属している町内会連合会では、人が少ない町内会は3人、4人しかいない所もある。人の少ない町内会は一人暮らしの高齢の方だけの世帯が多く、その方が亡くなれば空き家になってしまうという現状がある。そういった普段感じる問題以外にも、多くの問題があることをこの外部評価を通して感じた。
- ・外部評価を通して市民目線で評価された事業を根底から見直して、予算を惜しまずに実施していただきたい。
- ・近未来を幅広い年齢層・職種で考えていくような仕組みを作っていたきたい。そうすれば、様々な年齢層で市の未来を考える機会を作ることができると思う。

4. 閉会

11:00 閉会

